

議会だより

No.153

☆6月定例会	14
☆5月臨時議会	15
☆議案等の審議結果	15
☆一般質問	16
☆活動報告	19

発行 麻績村議会
編集 議会編集委員会
〒399-7701
長野県東筑摩郡麻績村麻3837番地
電話0263-67-3001
FAX0263-67-3094

6月定例会

6月定例会は、6月5日から12日まで8日間の会期で開催された。

地球温暖化防止やエアコン等の使用による節電の観点から、上着やネクタイの着用を個人の判断とするクールビズ対応で行った。

本会議第1日目は、諸般の報告として例年同様に、聖高原リゾート(株)・株聖高原管理センターの経営状況に関する報告と、令和5年度の一般会計における繰越明許費繰越計算書報告と議員派遣結果報告がなされたあと、

- ・ 条例改正議案 1件
- ・ 令和6年度補正予算 2件
- ・ その他の案件 1件

の計4件が一括上程された。

本会議終了後、議会全員協議会を行い、上程した議案等の詳細説明を提出者から受けた。

新たに聖高原にオートキャンプ場を整備するため「麻績村聖高原観光施設の設置及び管理に関する

条例の一部を改正する条例」聖高原別荘地、地上権設定契約者の長期にわたり地代を滞納している者に對し、地上権設定契約に基づく権利解除を法的行為により行うための「聖高原別荘地地上権に関する訴訟の提起について」等を行った。

補正予算は一般会計において総務費では4月の人事異動に関する人件費、定額減税調整給付金関係経費及び委託料の増額を、民生費では役務費、委託料負担金補助及び交付金の増額補正を行った。補正額は43,800千円の増額で歳入歳出総額は2,918,800千円となる。

本会議2日目の7日には、一般質問を行い、6名の議員が村政の執行状況や今後の方針について所信を質し、あるいは報告、説明を求めた。

「障がい者福祉計画」「障がい児福祉計画」について村民への周知の方法についての質問には、計画の実施には障がいを持つ方、ご家族、住民の理解が必要と考え、広報・ホームページ等で周知していくとの答弁がなされた。

その他、通園通学バス利用時の安全の確認についてや麻績村の森林整備について、人口維持に向けての村づくりについて、加齢性難聴による補聴器購入への補助、行政におけるDXに推進についてなどの質問がなされた。

11日には議員全員で、村内の道路及び水道施設等の視察を行った。

本会議3日目である12日には、第1日目に上程した議案等4件について審議・採決等を行い、すべての案件で全員賛成により原案のとおり可決した。

また議員発議による訪問介護費の引き下げ撤回と介護報酬引き上げの再改定を早急に行うことを求める意見書の提出、義務教育費国庫負担制度の堅

持・拡充を求める意見書の提出、さらなる少人数学級推進と教育予算の増額を求める意見書の提出、へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すことを求める意見書の提出、女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書の提出についても可決された。

諸般の報告

○第12期聖高原リゾート株式会社経営状況に関する書類の報告

○第52期(株)聖高原管理センターの経営状況に関する書類の報告について

○令和5年度麻績村一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について

○議員派遣結果報告

請願・陳情等の委員会付託

○訪問介護費の引き下げ撤回と介護報酬引き上げの再改定を早急に行うことを求める陳情

○義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を

求める請願

○さらなる少人数学級推進と教育予算の増額を求める意見書の採択を求める請願

○へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すことを長野県知事に求める請願

○女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める請願

○年金制度における外国人への脱退一時金の是正を求める意見書の採択を求める陳情

(社会文教委員会付託)

条例の改正

○麻績村聖高原観光施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

令和6年度
補正予算

○一般会計補正

(第1号)

○麻績村介護保険特別
会計 (第1号)

その他

○聖高原別荘地地上権
に関わる訴訟の提起
について

議員 発議

○訪問介護費の引き下
げ撤回と介護報酬引
き上げの再改定を早
急に行うことを求め
る意見書の提出○義務教育費国庫負担
金制度の堅持・拡充
を求める意見書の提
出○さらなる少人数学級
推進と教育予算の増
額を求める意見書の
提出○へき地教育振興法に
鑑み、へき地手当等
支給率を近隣県並み
の水準に戻すことを求める意見書の提出
○女性差別撤廃条約選
択議定書の速やかな
批准を求める意見書
の提出

○議会議員の派遣

5月臨時議会

市野川地区において
水道整備事業が進めら
れており入札の結果、
工事請負契約の仮契約
が締結された。地方自
治法第96条第1項第5
号の規程及び議会の議
決に付すべき契約及び
財産の取得又は処分
に関する条例第2条の規
定に基づき、5月20日
に臨時議会が開催され
可決された。あわせて3月28日に
行った令和5年度一般
会計における最終の補
正予算(第9号)、村税
条例の一部を改正する
条例について、麻績村
国民健康保険条例の
一部を改正する条例に
ついての専決承認を行
った。なお、一般会計第9
号補正により、令和5
年度の最終予算額は39
億4810万円となり、
当初予算額より11億円
ほど増額となった。

各種事業の進捗を確認しました

村内で行われている
各種事業の実績、また
進捗状況を6月11日に
議員全員で確認しまし
た。聖地区では今年の夏
にオープンする「聖高
原オートキャンプ場」
の工事現場や、桑岡公
民館、桑山地区移住定
住促進住宅、福祉施設
建設予定地、市野川淨
水施設など村内9ヶ所
を巡回し、村より事業
の進捗などについて説
明を受けました。▶ 聖高原
オートキャンプ場

▲ 桑山地区移住定住促進住宅

【議案等の審議結果】

*案件名称のうち、「麻績村」は省略します。

6月定例会

案件 種別	議案 番号	名 称	議員名と賛否							
			飯森茂孝	塚原利彦	宮下 朗	茂木泰男	飯森寛志	宮川秀俊	清水 清	
議案	議案1号	麻績村聖高原観光施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する 条例について	○	○	○	○	○	○	○	
議案	議案2号	聖高原別荘地地上権に関わる訴訟の提起について	○	○	○	○	○	○	○	
議案	議案3号	令和6年度 一般会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	
議案	議案4号	令和6年度 介護保険特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	
発議	発議1号	訪問介護費の引き下げ撤回と介護報酬引き上げの再改定を早急に行うこ とを求める意見書の提出について	○	○	○	○	○	○	○	
発議	発議2号	義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書の提出について	○	○	○	○	○	○	○	
発議	発議3号	さらなる少人数学級推進と教育予算の増額を求める意見書の提出について	○	○	○	○	○	○	○	
発議	発議4号	へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻 すことを求める意見書の提出について	○	○	○	○	○	○	○	
発議	発議5号	女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書の提出について	○	○	○	○	○	○	○	
発議	発議6号	議会議員の派遣	○	○	○	○	○	○	○	

一 般 質 問

質問事項

茂木 泰男

- 駅前周辺の整備事業について
- 新型コロナウイルス感染症対策について
- 「障がい者福祉計画」・「障がい児福祉計画」について
- 防災対策について

飯森 寛志

- 現園児、児童、生徒通園通学バス利用時の安全性について
- 当村における、森林経営管理制度の進捗状況について

清水 清

- 麻績村の森林整備について
- 麻績村の防災関係について

飯森 茂孝

- 人口維持に向けての村づくりについて
- 農業振興について
- ゼロカーボンに向けた村づくりについて
- 災害時における危機管理について

塚原 利彦

- 加齢性難聴による補聴器購入への補助について
- 公共交通施策について
- 地方自治法一部改正案について
- 子ども子育て支援事業に関して

宮下 朗

- 行政におけるDX推進について
- 第9次高齢者福祉計画について

聖高原駅前周辺の整備事業の状況は

事務作業が終了しだい 検討委員会を設置し推進する

問 今年度の重点事業として聖高原駅前周辺の整備事業が明記されているが、どの様に事業を進めるのか。

答 駅前整備事業については村独自に進めるのではなく、関係機関との各種協議を進める必要がある。駅前については従来とは大変構成が変わってきている。アルピコタクシーが撤退したり、空家が増えたり、タクシー等については聖高原バスが運行するという形態の中で、今までは構造が変わってきたというふうな部分もある。この様な状況の中で今後土地の部分についても地権者との協議や、多方面にわたり協議をしている状況である。いずれにしても整備事業はいろいろな面で下調べも含め相対的に現在検討を進めている。



茂木 泰男 議員

問 段階である。以前の質問の回答だと駅前整備事業は庁内で研究検討をし委員会を立ち上げると記憶している。聖高原の玄関口として現状は必ずしもよい状況ではないと思う。村の活性化、若者の移住、観光振興等各課を横断した総合的な取組として村を挙げて早急に取り組んでいただきたいが、委員会の構成や、タイムスケジュールについてお聞きする。

答 委員会の設置はまだ事務作業の段階であり、メンバーの皆様方にどのような形で示せるのか検討中である。大規模な工事となると全体的な財政部分を検討し、財源を有効活用して村民に負担がからないような形の中で実施を考えている。また委員会等については、幅広いご意見を聞く形で実施していきたい。今後基礎的な事務が進んだ段階で検討委員会を立上げ皆さんのご意見を反映し、駅前整備に生かせればと思っている。

麻績村スクールバスの必要性は

プロドライバーによる安全運転の中で、 今後も村営バスを活用する

飯森 寛志 議員



問 麻績村スクールバスの必要性は。

答 基本的には、村営バスを活用する。スクールバス運用は、全村を網羅する必要がある。今後、村営バスを活用し、プロドライバーによる安全運転の中で、実施していく。

問 今年3月に保護者有志より提出された「スクールバス導入」についての回答は。

答 4月9日の定例教育委員会にて協議。結果、継続審議となる。学校において保護者等から情報収集を行い、実際の現状を把握することとを教育長から校長に指示した。4月18日、小学校でニーズを聞き取りした。低学年の登下校時間帯に合わせたバスの運行を希望。具体的な運行時間帯は、朝夕の通学時間帯にバスの増便が可能か、委託先に投げかけている。村営バス担当課では、先月に、小学校の始業就業時間に合わせた村

営バスの増便運行について、運行案を現在委託事業者と協議した結果、運転手の問題で残念ながら増便等はできないという回答。

問 スクールバスを運行し、園児、児童・生徒の通学時の安全確保をする考えは。

答 安全確保は、もちろん重要。しかし、スクールバスでないと安全確保ができないとは考えていない。歩いて登校する児童も多いので、通学する道路の安全点検、交通安全教室の実施などソフト面での充実が必要。そういった面での取組を重視している。

問 登下校時において、学校関係者が同乗して子どもたちの安全確保をする考えは、車内での指導は。

答 教職員では難しい。安全確保では、コミュニケーションスクールなどの学校ボランティアの活用が思い当たる。この面でも状況改善に努めていければと思っている。

問 運行経路について、小学校、保育園を終点とする考えは。

答 県への申請が必要。申請して許可を得ればできないことはないと思う。

松くい枯損木処理に民間事業者参入の評価は

大変ありがたい事業と思っている

清水 清 議員



問 地域課題でもある松くい虫被害状況は。

答 村内の被害量は、令和3年12月現在961立米・令和4年957立米・令和5年690立米であり減少傾向である。樹種転換などアカマツ林も減っている。

問 被害把握はどのような方法での調査か。

答 担当者による村内パトロールで、被害木を拾い出し被害量の把握をしている。

問 ドローンによる調査も正確に把握出来ると思うがその考えはないか。

答 村では1台所有しており、活用方法も含め今後検討する。

問 令和5年度、県の補助金を活用し、女測地区での私有地において民間事業者の参入に

よりアカマツ枯損木を伐倒、搬出し、地域の環境保全を含め処理し燃料として活用された。一連の事業に対し、村ではどのような評価をしているか。

答 民間事業者の活力により実施され、伐採した枯損木は信州Fパワープロジェクトにより木質バイオマス発電の燃料材として活用された。今年度においても、同事業を女測地区において予定しており、地域の自然環境の保全、景観に配慮する中で、大変ありがたい事業と思っている。今後、森林環境税を活用した県の補助事業の事業枠の拡大等の要請を進めていく。

問 森林保全アドバイザーの導入の考えはないか。

答 県の事業で市町村林務行政コーディネーター派遣事業があり、令和5年度に派遣要望をしたが採択されず、本年度も派遣要望をしている。こういった事業が活用できれば期待する。

人口維持に向けての村づくりの方針は

子育て支援、高齢者・障がい者に 優しい村づくり等に努めてゆく



飯森 茂孝 議員

問 民間組織である人口戦略会議において、

消滅の可能性のある自治体がこの程、公表された。幸い麻績村はこのリストから抜けているが、この発表に対する率直な感想と当村が目指す人口減少対策は。

答 少子高齢化、人口減少は全国的な傾向となっている。2050年には麻績村も1,651人になると予想されている。人口減少を緩やかにできればと考え、子育て支援や教育環境の充実、移住、定住の推進にも努め、高齢者、障がい者に優しい福祉、農業、商工業の振興など総合的に推進し、自然豊かな麻績村で住んでみたいと思うような事業を進める。若者の結婚、新生活支援の現状は。

答 村では、国の地域少子化対策重点推進交付金を活用して、村に住所を有する新婚世帯に対し補助事業を行っている。昨年度は2件の申請に対して30万円を上限とする支援を行った。

問 若者定住施策の具体策として、働く場所の確保も重要なポイントとなるが企業誘致の考えは。

答 企業誘致については、情報をしっかりと取りながら進める。麻績村については、工場誘致というよりも交通網等活用する中で、通勤可能な近隣の地方都市に勤めていただき、生活は麻績村でというようなベッタタウン的な推進ができればと思っている。

問 人口維持には、福祉や介護の担い手の確保が必要であると考え、村としての今後の対応は。

答 福祉、介護の雇用市場は、厳しい状況にある。人材確保に向けた働きかけを行って行く。

不登校等の児童生徒の現状や居場所は

小、中とも数名おり、 居場所として中学校の空き教室を



塚原 利彦 議員

問 児童・生徒の不登校と、その居場所に関して、現状と対策は。

答 小・中学校ともに数名の不登校や不適応傾向の児童・生徒がいる。本人や保護者からの願い、希望をしっかりと聞いて、最適な学びや居場所となるよう個別の指導を行っている。

今年度から空き教室に余裕がある筑北中学校に、中間教室の役割を果たすことができる教室を設置した。この教室は、希望する小・中学生が利用できるようになっている。現在は中学生が利用しているが、小学生にも紹介して居場所のひとつとなるようにしている。学習への取り組みも、様々な学習方法が考案されており、個別・最

適な学びとなるよう研究を進めている。

問 その居場所となる中間教室で子供たちとの対応は誰が行うのか。

答 基本的には正式な中間教室と認められていないので、空き時間の先生方でうまく回しながら見ていただいている。子供たちも行く授業は、教室へ行くなど動きがあるので、現状に応じて進めていきたい。また、小学生も来るという事であれば、さらに対応を考えなければならぬ。

問 不登校・不適応の子供の数の推移は。

答 急激に増えているという事ではない。毎年数名という状況。

問 親御さんが仕事に行けず困っている、というような時には対応できるのか。

答 それぞれの家庭環境も含めて違いがあり、個別に本人や保護者と話をさせていただき、無理せずしっかりと一人一人に向き合う方向で対応を進めたい。

麻績村としてLINE公式アカウントを導入する考えは

導入済み自治体の活用方法を 参考にして検討したい



宮下 朗 議員

問 月間利用者が9700万人と言われるスマートフォンアプリ「LINE」は、今や村内の団体やグループでも各種連絡や情報共有のツールとして活用されている。LINEの運営会社は自治体向けに無償で公式アカウントのプラットフォームを提供し、防災情報や子育て情報の発信、各種問い合わせ窓口を提供し、活用していると聞く。麻績村として導入する考えはないか。

答 既に多くの自治体で導入され、広報や相談業務などに利用されていることは認識している。各自治体では、それぞれの目的を達成するための一つの情報のツールとして活用されている。今後、既に導入されている自治体の活用方法などを参考にしながら、研究をしていく考えである。

問 現在、麻績村における緊急時の防災情報等の提供は、同報無線に限られている。過去の大震災の教訓から緊急時の情報伝達手段は複数必要であるといわれている。LINEの導入はこの点からも必要かと思われる。また、有料の付加サービスではあるが、村民アンケートや地域限定ポイントサービスにも活用できるとのことなので、ぜひ早期導入を検討していただきたいが、いかがか。

答 近隣自治体でも活用が進んでいることは承知している。LINEのアカウントを取得して、その後、どうするかというところが課題である。組織的な課題、また環境的な課題をどうやって運用していくかというような課題もある。先進市町村の事例を参考にしながら庁内で検討したいと考えている。

私たちはこんな活動をしています

- 5月**
 - 議会運営委員会
 - 東筑議長会臨時総会
 - 第2回臨時議会
 - 例月出納検査
 - 定例連絡会
 - 町村議会議長・副議長研修会
 - 篠ノ井線松本地域活性化協議会総会
 - 安曇野防犯協会総会
- 6月**
 - 松くい虫防除対策協議会
 - 「サマーナイトフェスティバル」実行委員会
 - 定例議会
 - 議会全員協議会
 - 社会文教委員会
 - 議会現地視察
 - 社協理事会
 - 青木・麻績インター新町間県道整備促進期成同盟会総会監査
 - 例月出納検査
 - 社協評議委員会

議会議員なり手不足について 検討会を立ち上げました

全国的に町村議会議員へのなり手不足が問題となってきたおり、一部の町村議会では議員の定数割れや無投票の町村が増えてきています。当村議会選では、定員割れは発生していませんが、前回の選挙は無投票で男性シニアクラス候補者のみ、若者の立候補者不足、女性候補者不足等今後の議会議員不足が問題となってきました。そこで、今年度より「議員なり手不足検討会」を立ち上げることとなりました。

当村の現状分析から、今後の進め方を協議し、村民、住民の方々へ問題の周知やアンケート調査等を検討し、明るい村政、暮らしやすい村づくりを進めていきたいと考えています。

編集委員

茂木 泰男
飯森 孝彦
塚原 利彦
宮下 朗